

**価格.com のデータを分析した最新トレンドをお届けする「価格.com レポート」**  
**アベノミクスによる円安と国内メーカーの高級モデルシフトの影響で、**  
**パソコンの販売価格が一気に上昇**  
**2013 夏のパソコン購入は早めの決断が吉！？**

カカコムより、月間約4,500万人が利用する購買支援サイト『価格.com』より、日々蓄積されるアクセスデータや、価格の推移情報などを集計・分析したレポートをお届けします。

今回は、いたるところで耳にする「アベノミクス」の影響によるパソコンの販売価格上昇についてレポートします。

### NEC の主力ハイエンドモデルは、春モデルに比べて 3 万円も上昇

今年 2013 年に入ってからというもの、第二次安倍内閣がすすめる経済政策「アベノミクス」の影響で円安が急激に進んでいる。実は、その影響はすでに今年の春先には、PC パーツの販売価格の上昇となって現れていた(※1)が、そうした PC パーツを組み込んで製造されているパソコンの春モデルに関しては、製造された時期はまだ円安がそう進行していなかったということもあって、販売価格に直接的な影響は出ていなかった。しかし、この 5~6 月より各メーカーから発売され始めているパソコンの夏モデルについては、円安によるパーツ価格高騰の影響が顕著に現れている。

※1: [http://kakaku.com/trendnews/kaden/id=weekly\\_969/](http://kakaku.com/trendnews/kaden/id=weekly_969/)

図 1: NEC の主力 PC「LaVie L」春モデルと夏モデルの最安価格推移(直近 6 か月)

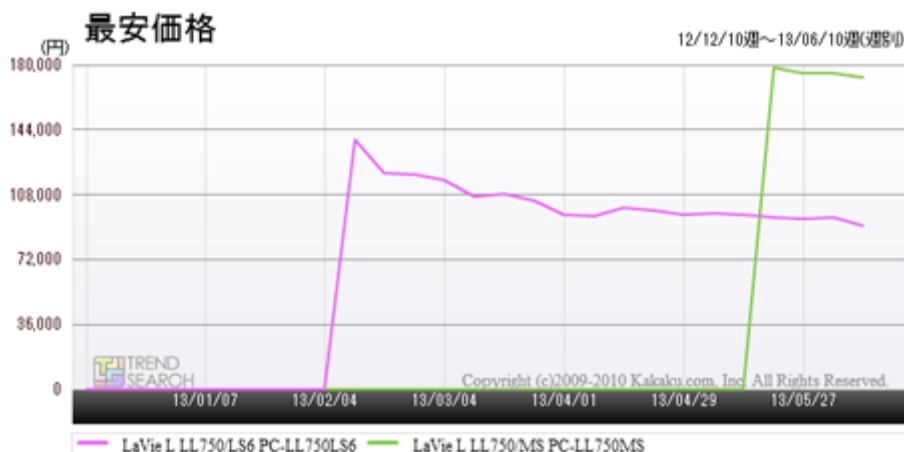


図1は、NEC のノートパソコンの主力ハイエンドモデル「LaVie L」の 2013 年春モデル「LaVie L LL750LS6」と、2013 年夏モデル「LaVie L LL750MS」2 機種、価格.com における最安価格の推移を比較したものだ。両モデルとも、CPU にインテルの「Core i7」を搭載した 15.6 型液晶搭載の上級モデルで、CPU 以外のスペックはほぼ同等。異なっているのは、CPU が従来の「IvyBridge」と呼ばれる第 3 世代の「Core i7 3630QM」から、「Haswell」と呼ばれる第 4 世代の「Core i7 4700MQ」に代わったくらいで、実質的なマイナーバージョンアップと言ってよい。

CPU の世代が変われば、当然ながら性能は向上するが、これまでの数年間のトレンドでは、パソコンの CPU が変更になったくらいでは、パソコン自体の価格への影響はなかった。しかし、今回の夏モデルについては、かなり大幅な値上げがなされている。

グラフを見ると、春モデルの「LaVie L LL750LS6」が登場した 2013 年 2 月 5 日の最安価格は 159,800 円。これに対して、夏モデルの「LaVie L LL750MS」が登場した 2013 年 5 月 14 日の最安価格は 189,800 円で、これだけ見ても 3 万円の値上がりとなっている。さらに、両モデルの製品発表後 40 日の価格下落の様子を見ても、春モデルの「LaVie L LL750LS6」が 109,980 円なのに対し、夏モデルの「LaVie L LL750MS」は 127,800 円と、その差は若干縮まったものの、依然として 2 万円近い差が生じている。どちらも下落率は 32% 前後と差がないものの、売り出し価格の差がそのまま価格差となっているようだ。

図 2: NEC の主力 PC「LaVie L」 春モデルと夏モデルの最安価格推移(直近 1 か月)

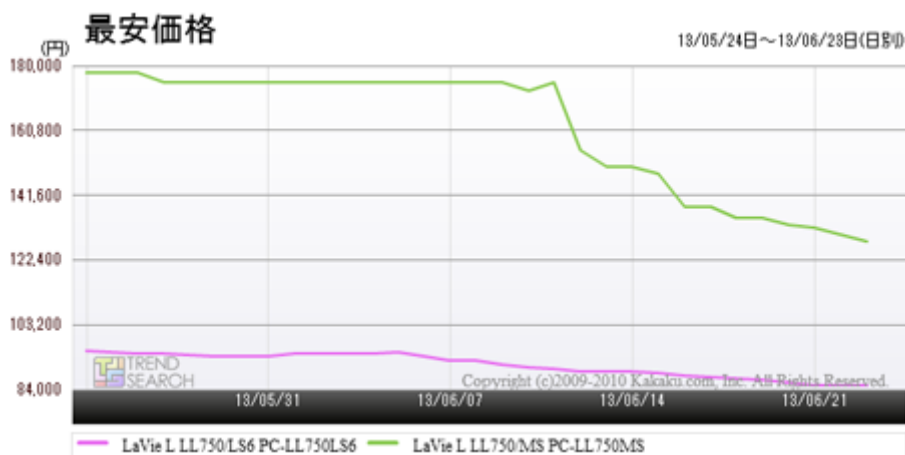


図 3: NEC の主力 PC「LaVie L」 春モデルと夏モデルの製品情報ページへのアクセス数(直近 6 か月)



なお、図 2 に示した春モデルと夏モデルの直近 1 か月間の価格差を見ると、両者の最安価格における価格差は 4 万円以上。CPU の世代が新しくなったとはいえ、そのほかの性能や OS はほぼ同じであることを考えると、今割高な夏モデルを購入するよりは、割安感のある春モデルを購入したほうがおトクと考える消費者は多い。その結果、図 3 に示すように、夏モデルの発表後も、春モデルの「LaVie L LL750LS6」の人気は右肩上がりでも上昇を続けており、価格.com の「ノートパソコン」カテゴリーの売れ筋ランキングでも 3 位に入っている状況だ(2013 年 6 月 25 日時点)。

東芝の主力スタンダードモデルは、春モデルに比べて3~4万円上昇

図4: 東芝の主力PC 春モデル「dynabook T552」と夏モデル「dynabook T553」の最安価格推移(直近6か月)

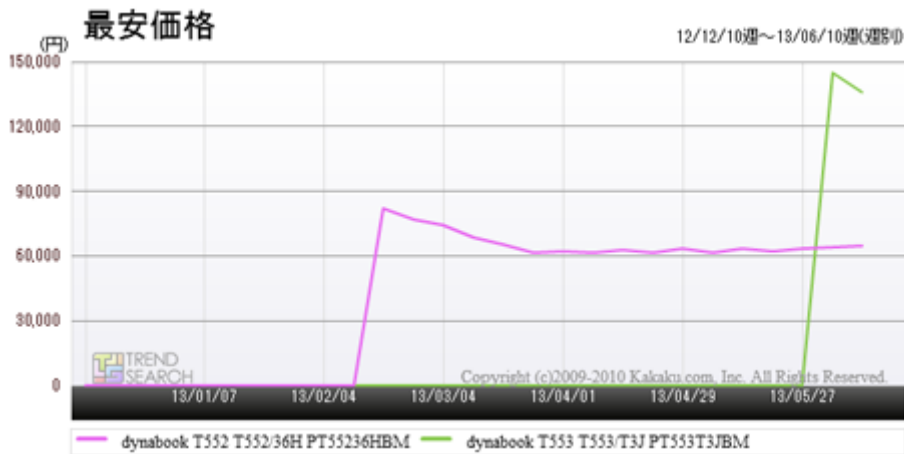
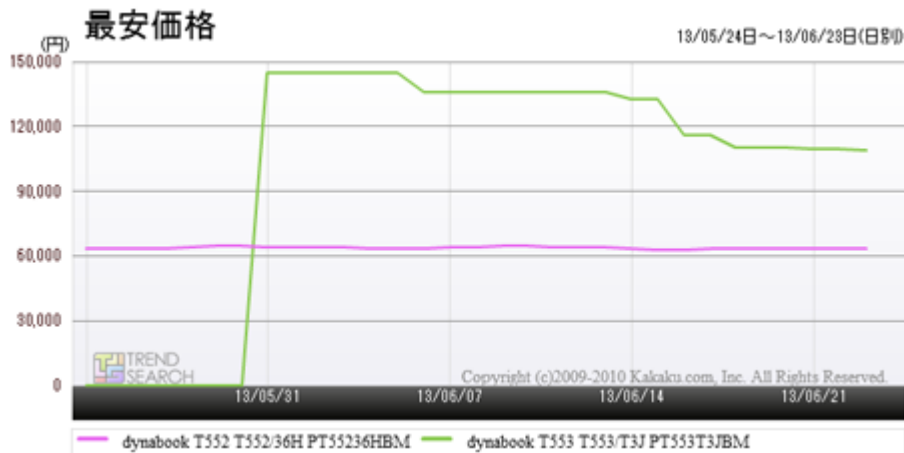


図5: 東芝の主力PC 春モデル「dynabook T552」と夏モデル「dynabook T553」の最安価格推移(直近1か月)



こうしたパソコンの値上がり現象は、NECに限ったものではない。図4は、東芝のノートパソコンの主力スタンダードモデルの春モデル「dynabook T552/36H」と、夏モデル「dynabook T553/T3J」の最安価格推移を示したもの。こちらの両モデルについても、基本的にはCPU変更以外に大きなスペック変更はない。しかもこちらの場合は、CPUが変わったと言っても、新たに登場した「Haswell」世代の新プロセッサではなく、「Celeron Dual-Core 847」という廉価版プロセッサであるため、販売価格が大きく上がるということは、これまでの常識から言えば、ほとんどあり得なかった。

しかし、図4を見ればわかるように、両者の売り出し価格には大きな差が出ている。2013年春モデルとして発売された「dynabook T552/36H」の2013年2月13日時点での最安価格は105,240円。発売後はすぐに価格が下落して、製品発表後約3週間の3月8日にはすでに73,780円というほぼ3割引きの価格となっている。しかし、この夏モデルとして発売されたほぼ同スペックの「dynabook T553/T3J」の最安価格推移を見ると、5月31日の登場時には、144,800円というかなり高めの価格がついた。「dynabook T552/36H」の登場時と比べると、実に4万円近い値上がりだ。その後、製品発売とともに価格は下がっていくが、製品発表後約3週間の6月25日時点での販売価格はいまだ10万円を上回る108,160円と、下落率も25%ほどでやや高止まり傾向にある。

図 6: 東芝の主力 PC の春モデル「dynabook T552」と夏モデル「dynabook T553」の製品ページへのアクセス数(直近 6 か月)



図 5 は、直近の 6 月 24 日現在の両者の最安価格差を示したもののだが、春モデルの「dynabook T552/36H」が 63,334 円なのに対して、夏モデルの「dynabook T553/T3J」が 108,605 円と、その価格差は 4 万円以上。CPU の世代も代わらないマイナーバージョンアップでありながら、ここまでの価格差が開いたため、最新モデルの「dynabook T553/T3J」は、「ノートパソコン」カテゴリの売れ筋ランキングでは 671 位と、スタートダッシュがまったく出遅れてしまい、ユーザーの注目をあまり得られていないようだ(図 6)。この春までは、そのコストパフォーマンスの高さから比較的高い人気を得た東芝の「dynabook T552/36H」であるが、夏モデルの後継モデルに関しては、春モデルほどの価格下落は想像しにくい。

### 円安による PC パーツの価格高騰と、国内メーカーの高級モデルへのシフトが原因

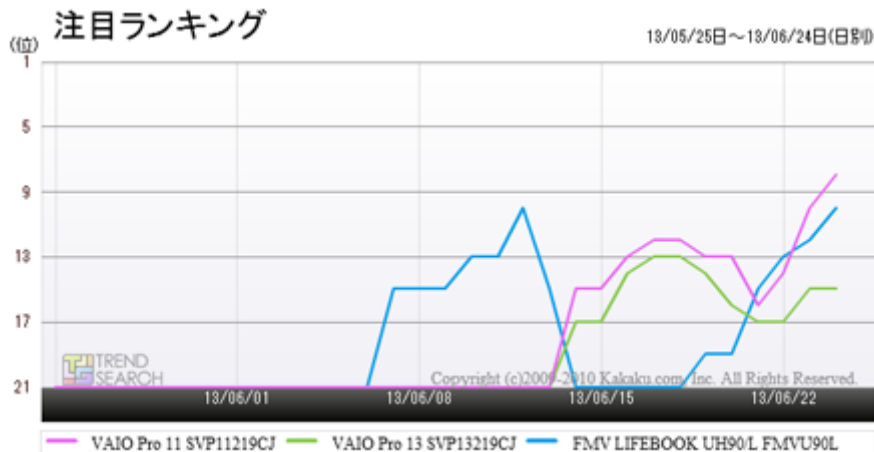
図 7: インテル「Core i7 3770K」と「Core i7 4770K」の最安価格推移



前述のパソコン価格高騰の大きな理由は、もちろん円安によるパーツ価格の高騰にある。図 7 は、この 6 月に発売が開始されたインテルの「第 4 世代 Core プロセッサ」こと「Haswell」の最上級モデル「Core i7 4770K」と、昨年モデル「Core i7 3770K」の最安価格推移だ。これを見ると、昨年モデルの「Core i7 3770K」の売り出し価格が 29,980 円なのに対し、今年モデルの「Core i7 4770K」は 37,480 円と、両者間では 7,500 円も違っている。また、昨年暮れくらいから進行し始めた円安の影響を受けて、昨年モデル「Core i7 3770K」の最安価格もじりじりと

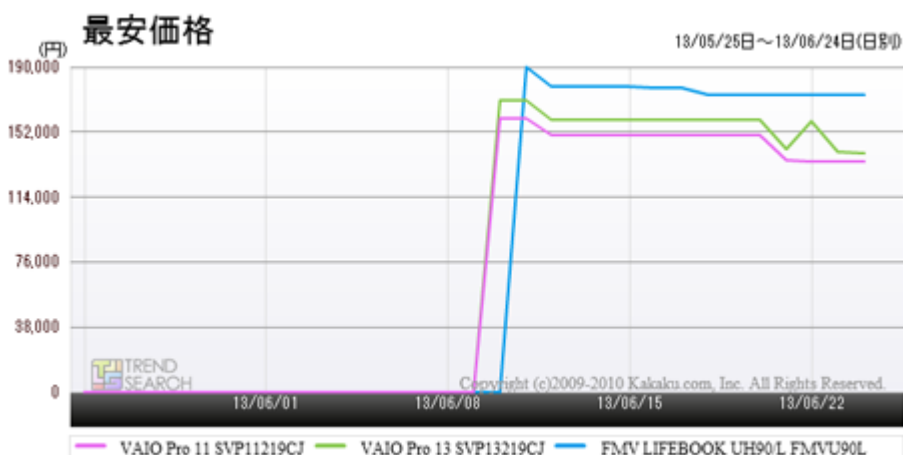
高騰を続けており、2013年6月25日現在の最安価格は31,616円と、発売開始時よりもむしろ値上がりしているほどだ。以前([http://kakaku.com/trendnews/pc/id=weekly\\_969/](http://kakaku.com/trendnews/pc/id=weekly_969/))にもお伝えしているように、パソコンに不可欠なメモリーやSSDの価格も高騰を続けており、こうしたPCパーツ価格の高騰が、パソコンの販売価格を押し上げていることが見て取れる。

図 8:ソニー「VAIO Pro 11」と、富士通「FMV LIFEBOOK UH90/L」の注目ランキング推移



そして、もうひとつの要因として、この夏の新モデルに関しては、ソニー、富士通といった国内の主要パソコンメーカーが、ラインアップを大幅に見直し、低価格モデルの数を減らして高価格帯モデルへのシフト化を鮮明にしてきたことがある。この夏モデルで一番注目を集めているソニーの軽量モバイルノート「VAIO Pro 11 SVP11219CJ」(6月22日発売)では、価格.com 初登場時の価格が159,800円と、かなりの高値設定となっているが、770g(タッチパネルなしモデル)という超軽量ボディという付加価値によって注目を集めており、注目ランキングでは7位に入っている(図8:6月25日現在)。6月24日時点の最安価格は134,410円で、15%ほど下落しているが、依然高値で推移している(図8、図9)。

図 9:ソニー「VAIO Pro 11」と、富士通「FMV LIFEBOOK UH90/L」の最安価格推移



また、6月28日発売の富士通の「FMV LIFEBOOK UH90/L」についても、解像度3200×1800ドットのIGZO液晶を搭載した製品ということで話題となっている機種だ。価格.comの「ノートパソコン」カテゴリの注目ランキングでも9位に入っている(6月25日現在)。こちらもこれまでのノートパソコンにはない付加価値を搭載することで、

価格.com 初登場時は実に 189,800 円という高値をつけた(図 8、図 9)。実際の発売時には 17 万円前後となる見込みだが、こちらについてもこの夏の高級モデルとして特徴ある製品と言えるだろう。こうした国内パソコンメーカーの高級モデルへのシフトが進むことにより、低価格の国内メーカー製パソコンは徐々にその姿を消しつつある。これにより、パソコン価格はいっそう高騰するものと思われる。

あとは台湾メーカーなどが製造する海外製の低価格パソコンであるが、これも円安の影響を受けることは間違いない。先日も、アップルの「MacBook」シリーズが数万円規模の値上げをしたが、今後、ほかのメーカーもこの動きに追随する可能性は十分にある。いずれにしても、より安くパソコンを購入しようと思うのであれば、この夏、早めに決断したほうがよさそうだ。

- 価格.com ノートPCカテゴリ: <http://kakaku.com/pc/note-pc/>
- 価格.com ノートPC売れ筋ランキング: [http://kakaku.com/pc/note-pc/ranking\\_0020/](http://kakaku.com/pc/note-pc/ranking_0020/)
- 価格.com ノートPC注目ランキング: [http://kakaku.com/pc/note-pc/ranking\\_0020/hot/](http://kakaku.com/pc/note-pc/ranking_0020/hot/)

■ 過去のレポート一覧は、以下より参照いただけます。

<http://kakaku.com/trendnews/weekly/>

【価格.com サイトデータ】(2013 年 5 月末現在)

月間利用者数 4,478 万人、月間ページビュー 9 億 4,566 万 PV、累計クチコミ件数約 1,600 万件  
<利用者内訳> PC : 3,172 万人 スマートフォン : 1,202 万人 フィーチャーフォン : 104 万人

【株式会社カカコム 会社概要】

所在地 : 東京都渋谷区恵比寿南3丁目5番地7 恵比寿アイマークゲート  
代表取締役 : 田中 実  
企業情報 : <http://corporate.kakaku.com/>  
事業内容 : サイトの企画・運営  
当社運営サイト一覧 : <http://corporate.kakaku.com/company/service.html>

【報道に関するお問い合わせ先】

株式会社カカコム 広報室 e-mail: [pr@kakaku.com](mailto:pr@kakaku.com)

#### データの引用・転載いただく際のクレジット表記について

本レポートの引用・転載の際は、必ずクレジットを明示くださいますようお願いいたします。  
例)「価格.com トレンドサーチ」調べ、「価格.com」のデータ分析によると...など